

長野日報 12月13日 掲載

ピラミッド型のイルミ

駒工高生「ルビーの里」で製作

駒ヶ根市福岡にある金属加工工業タカノ（本社宮田村）のエクステリア工場敷地内に整備された「ルビーの里」で、今年も駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）電気科の3年生がイルミネーション作りに取り組んでいる。冬の園内を電飾で華やかに彩ってもらうと、同社の要請で2014年から続

く取り組み。今年はピラミッド型のデザインを採用し、今月中旬からの点灯を目指して準備を進めている。

ルビーの里は同社が製造するオーニング（日よけ）の常設展示場を兼ねた憩いの場として整備され、夜間も開放されている。冬場は来場者向けにイルミネーションを設置し



イルミネーション作りに取り組み駒ヶ根工業高校電気科の3年生

ており、同校の生徒に演出部分での協力を要請している。

今年も課題研究の一環として、電気科のイルミネーション製作班に所属する3年生5人が担当。製作依頼を受け、夏から準備を進めてきた。今

年のイルミネーションは高さ約2・7メートルのピラミッド型。骨組みの側面にポリカーボネートの板と同校で集めた約360本のペットボトルを取り付け、発光ダイオード（LED）を飾り付ける。

作品には駒工の「コマ」とペットボトル、ピラミッドにちなんで「コマベッド」と名付けた。班長を務める森玉響さん（18）は「思っていたより迫力がある。LEDの下にペットボトルがあるので、うまく反射すればきれいになるはず」と期待していた。

（堀木俊典）